

戸田建設株式会社

〒104-8388
東京都中央区京橋 1-7-1
<http://www.toda.co.jp/>

会社概要

1881年創業、1936年設立の総合建設会社。「スーパーゼネコン」と呼ばれる五大建設会社に次ぐ準大手という位置づけであるが、病院など医療・福祉施設の建設実績は日本一といわれ、「病院の戸田」と呼ばれる。学校など教育・文化施設も強い。また、ゼネコン屈指の強固な財務体質を持つ堅実経営でも知られる。主な施工実績は、早稲田大学大隈講堂（1927年）、東京湾アクアライン（1997年）、武蔵野赤十字病院（2007年）など。



ネットさえつながってれば
必ず使える Google Apps。
事業継続計画の有効な手段になると
導入を決めました。

総合企画室情報管理課課長 佐藤康樹氏



端末の障害でメールが消失するトラブルが頻発

総合建設会社の戸田建設は、2011年8月、Google Apps for Business を全社に 5000 アカウント導入した。

同社のメールシステム導入は、1997年にさかのぼる。いち早く全社員共通のドメインによるインターネット標準のメール環境を構築した。

「その後、利用度の向上とサーバー増設の“イタチごっこ”が続き、オンプレミスでの管理に限界を感じて、2006年に思い切ってASPのメールサービスに切り替えました。当時、5000アカウントもの規模でASPに出すということも珍しかったようです」と、情報システム部インフラ整備チーム主管の盛茂実氏は言う。

そのASPのメールサービスは、アーカイブおよびスパムやウィルスのフィルターなどがオールインワンでセットされていて、使い勝手が向上した上にトータルのコストも削減できた点で、よい選択ではあった。

「しかし、メールサーバーのスペック上、各自のPC端末にPOPメールのデータをダウンロードし、サーバーのデータを削除する設定にせざるを得なかったため、端末がクラッシュするとデータも消失してしまうというトラブルが頻発しました」と情報システム導入にかかわる総合企画室情報管理課課長の佐藤康樹氏は打ち明ける。

工事用事務所のPCのデータが消失

それ以外にも、様々な問題があった。メールのクライアントにOutlook Expressを利用するユーザーが多かったが、メールのデータ量が4GBぐらい蓄積されると、その不具合により突然消失してしまうというトラブルにも見舞われていた。さらに、端末を入れ替える際は、メールのデータも移し変えなければならないという手間が生じていた。

「PC端末の入れ替えは4～5年に1回行っていますから、年間1000台は入れ替え作業を行っていることとなります。そのたびに、社内各所から情報システム部にヘルプの要請が入ります。それも大変な手間でしたね」と盛氏は言う。

「このメールシステムも、そろそろリプレースが必要」と佐藤氏らが考え始めていた状況の中、ある大きなトラブルが発生した。2011年2月、ある工事用事務所内にある全てのデータが消失してしまい、復旧不能となってしまったのだ。

「施工現場では、施工プロセスごとに写真を撮影し記録しておきます。例えば、鉄筋を組み終わったら、コンクリートを流し込む前に写真を撮っておいて、きちんと鉄筋を組んでいるという証拠とするわけです。そういった写真データが全部やられてしまいました。設計図面のデータも端末に入っていますが、他所にも同じデータが保存されている場合がほとんどなので問題ありませんでした。しかし、写真データは事務所の端末にしかなかったため、痛かったですね。今さらコンクリ



総合企画室情報管理課
課長
佐藤康樹氏



情報システム部
インフラ整備チーム主管
盛茂美氏

を取り除いて撮影し直すわけにもいきませんから」と佐藤氏は説明する。この事件で、トップ層から重要データの保管体制について改善するようとの要望が佐藤氏らに届いた。

震災などで Google Apps への移行を決定

「改善策を考えていた時、以前から知っていた Google Apps ならば、ストレージもついているし、積年のメールの問題も解決できると思えました。しかし、上層部や社内に認めてもらうのは難しいだろうと思ったのです」と佐藤氏が懸念したのは、自社のデータが納められているサーバーがどこにあるのかわからないという、クラウドに対する漠然とした不安感を持たれるであろうことであった。

「なにかいい説得方法を考えようと思っているうちに、3月11日が来てしまったのです」（佐藤氏）

岩手県石巻市の埠頭にあった現場は、工事現場事務所もろとも津波で流され、この大震災で事業継続計画（BCP）の必要性は一気に高まることとなった。さらに、福島第1原発から2kmのところにも施工現場があったが、当然のように立ち入れなくなる追い討ちをかけられた。

そして、既存 ASP サービスの業者から、神奈川のデータセンターに置かれているメールサーバーを、静岡に移転したいという打診があった。

「具体的に調べてみると、30年以内に80%以上の確率で東海地震が起るとされている震源域に入っており、なおかつ浜岡原発から30Km圏内という場所でした。そんなところに移されるのはBCP上看過できません。見切りをつけるしかなく、どうせならデータセンターは日本じゃなくてもいいだろうと。このことを Google Apps 導入の説得材料のひとつにしようと考えました」と佐藤氏は言う。そして6月上旬、Google Apps for Business の導入が正式に決定され、まずはテストとして20アカウントをキーマンに割り振った。

非効率さを Google Apps で一掃

「キーマンはITリテラシーの高い人が多かったのですが、テストの結果、『どこの端末でも同じメールが見られ、外でも使え、かついろいろな情報が共有できるのは素晴らしい』と好評でした」と盛氏は言う。従来導入していたグループウェアのカレンダーは社外では使うことができず、外出する時はプリントアウトして持ち出すという社員も多かったという。「スケジュールが変わるたびにプリントアウトするという非



効率が、Google Apps をスマートフォンに同期させることで一掃されましたね」と佐藤氏は評価する。同社では、申請があれば、個人の携帯端末での Google Apps へのアクセスを、端末認証で許可している。

震災後、停電や輻輳などで電話回線が繋がらない時にどう連絡を取るかという問題が社内で議論になった。停電時に PC のメールは使えないので、現状では個人の携帯電話が携帯のメールしか手段はないが、なかなか繋がらなかった。一方、twitter や Facebook などの SNS がつながって連絡手段として貢献しているという事象が報道され、会社として twitter のアカウントを取得することも検討された。「Google Apps 導入後、インターネットさえつながっていれば、Gmail なら必ず使えるという安心材料になりました」と佐藤氏は言う。

親しめるように「T-cloud」という名称をつける

Gmail は、連絡先を、姓に名前、名に部署名を登録することで、送信先を入力する際、例えば「佐藤」と打つと全国の佐藤氏を一覧・選択できるようにした。「以前は、社内名簿を検索する手間がかかっていたが、より簡便になった」と佐藤氏は言う。

Google Apps for Business を全社に導入時、諸機能についてのマニュアルを配布しただけで、操作法についてのガイダンスなどは行っていない。

「それでも、2カ月ほど経った時、『12月に予定されている震災訓練で、各現場の状況を吸い上げるのに Google ドキュメント を利用したい』といった声上がるようになりました」と佐藤氏は目を細める。

コスト面では従来と変わらないものの、従来はメールだけであったので、Google Apps for Business の Gmail 以外の諸機能の分は事実上、コストダウンにつながっている。「しかも、これがあればいいな、と思っていた機能がある日突然、基本的に無償で追加されるといったことが、Google Apps ではよく起こる（笑）。そんな進化性も魅力」と佐藤氏。Google Apps for Business に、同社は「T-cloud」という名称をつけ、ロゴを作成して各画面に表示させている。

「今後、社員が『T-cloud』に親しみ、どんどん使いこなしていってほしいと願っています」と佐藤氏は締め括った。

注) 製品名、企業名などは、該当する各企業の登録商標です



お問い合わせ

Google Apps for Business の詳細については、<http://www.google.co.jp/a> をご覧ください。もしくは、同ページ「お問い合わせ」よりお問い合わせください。

© Copyright 2011 Google

Google は、Google Inc. の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

© Copyright 2011 Google is a trademark of Google Inc. All other company and names many be trademarks of the respective companies with which they are associated. GECS 10/15/11